

福井県にある、曹洞宗の大本山永平寺では、毎年六月、約一週間にわたり、「眼蔵会（げんぞうえ）」と呼ばれる講座が開催されます。眼蔵会は、その名の通り、道元禅師が正しい仏法を著された『正法眼蔵』についての講座です。

講座にあたっては、本山の内外から講師である御老師をお招きし、修行僧のみならず、本山で修行僧の指導役を務める先輩方や、坐禅に親しんでいらっしゃる一般の方も共に受講され、各自、研鑽を深めます。

眼蔵会が最初で開催されたのは明治三十八年。その当時から続く特別講座は、時代が変遷する中においても、修行道場としての大本山永平寺が、道元禅師のみ教えを尊び、行いを守り続けている姿勢を表しています。

受講する修行僧は、大本山で作法を習い修行をしながら、講義を介してより深く道元禅師のみ教えに触れる機会を持つことができます。眼蔵会は、現代に生きる修行僧が道場において、時代を超えて道元禅師のみ教えに親しみ、新たな眼差しを以て、修行に取り組むことのできる大切な機会です。

時に私たちは、一方で書物から、他方で体験から多くを学びます。その言葉と体験が別々のものであれば、どちらかが優れているという競争になることもあります。

しかしながら、道元禅師のみ教えは、道元禅師自身の修行体験の中で生まれた言葉です。それゆえ、『正法眼蔵』にあって言葉と体験は、それぞれが別のものではなく、言葉にあることを体験を通して学び、体験によって、言葉を深く理解することができるのではないのでしょうか。

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

また、眼蔵会は大本山永平寺に限らず、各地域や寺院においても開催されております。修行僧のみならず、熱心に道元禅師のみ教えを学ぶ方に門戸を開いております。

禅に関する典籍として関心を持たれる方も多い『正法眼蔵』ではありますが、眼蔵会で御老師の修行を通じた体験を言葉として、受け取る事が出来る皆様の身近に開かれる眼蔵会がきっと見つかることと思います。

— 終 —